



HxMIDI Tools

ユーザーマニュアル V05

本製品をご使用になる前に、このマニュアルをよくお読みください。ソフトウェアとファームウェアは継続的に更新されます。このマニュアルのすべての図とテキストは実際の状況とは異なる場合があります、参照用です。

著作権

2025 © CME PTE.株式会社。全著作権所有。CME の書面による同意なしに、このマニュアルの全部または一部をいかなる形式でもコピーすることはできません。CME は CME PTE の登録商標です。LTD.をシンガポールおよびその他の国に設立しました。その他の製品名、ブランド名は、各社の商標または登録商標です。

HxMIDI Tools ソフトウェアのインストール

<https://www.cme-pro.com/support/> にアクセスして、無料の HxMIDI ツール コンピュータソフトウェアをダウンロードしてください。MacOS、Windows 10/11、iOS、Android バージョンが含まれ、すべての CME USB HOST MIDI デバイス(H2MIDI Pro、H4MIDI WC、H12MIDI Pro、H24MIDI Pro など)用のソフトウェアツールであり、次の付加価値サービスを利用できます。

- CME USB HOST MIDI デバイスのファームウェアをいつでもアップグレードして、最新の機能を利用できます。
- CME USB HOST MIDI デバイスのルーティング、フィルタリング、マッピング、およびその他の操作を実行します。

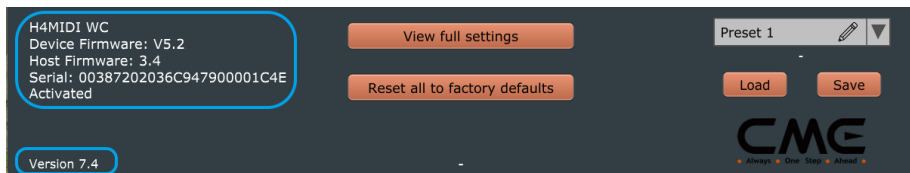
* 注: **UxMIDI Tools Pro** は 32 ビット **Windows** システムをサポートしていません。

接続 と アップグレード

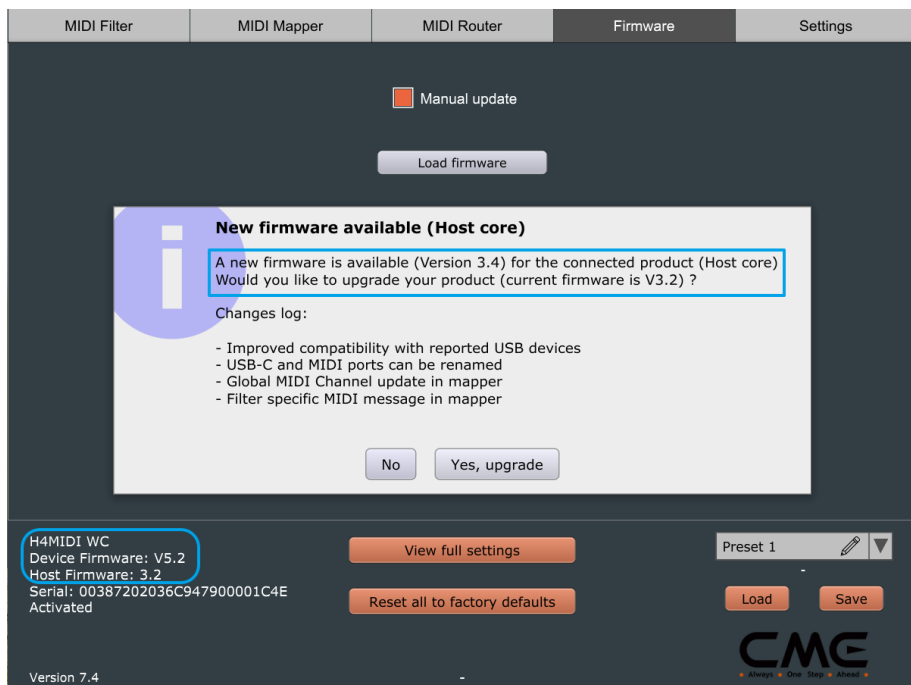
CME USB HOST MIDI 製品の特定のモデルの USB-C クライアントポートを USB データケーブルでコンピューターに接続してください。ソフトウェアを開き、ソフトウェアがデバイスを自動的に認識するのを待ってから、デバイスのセットアップを開始します。

*注:一部の **USB** ケーブルは充電にのみ使用でき、データを転送することはできません。お使いの **USB** ケーブルがデータ転送に使用できるかご確認ください。

ソフトウェア画面の下部には、モデル名、ファームウェアバージョン、製品シリアル番号、および製品のソフトウェアバージョンが表示されます。現在、HxMIDI Tools ソフトウェアでサポートされている製品には、H2MIDI Pro、H4MIDI WC、H12MIDI Pro、H24MIDI Pro が含まれます。

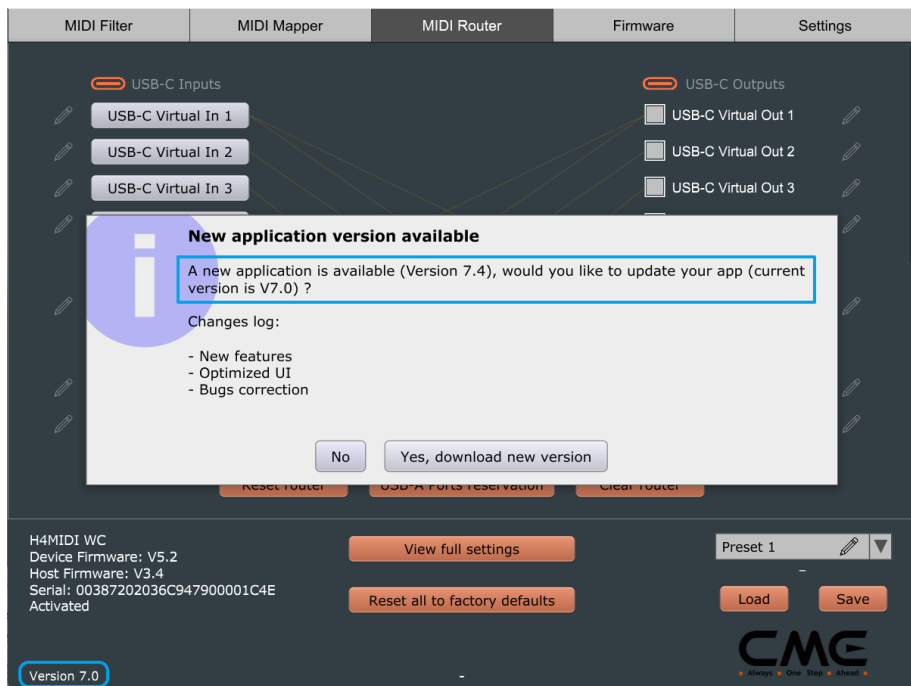


CME サーバのバージョンが、接続されたデバイスの組み込みファームウェアよりも高いバージョンであることがソフトウェアによって検出された場合、ソフトウェアはポップアップウィンドウを通じてアップグレードするように促します。「はい、アップグレードします」ボタンをクリックすると、ソフトウェアが自動的に最新のファームウェアをダウンロードして、接続されたデバイスにインストールします。アップグレードが完了すると、ソフトウェアは、デバイスを再接続して最新のファームウェアを有効にするようにユーザーに求めます。



ソフトウェアのバージョンが製品の最新のファームウェアバージョンと一致しない場合、ソフトウェアはポップアップウィンドウで

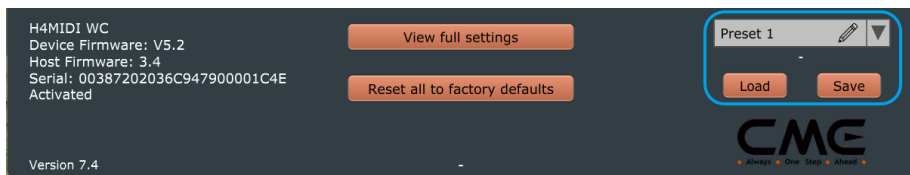
アップグレードするように求めます。「はい、新しいバージョンをダウンロードします」ボタンをクリックして最新バージョンのソフトウェアをダウンロードし、ダウンロードしたファイルを解凍してインストールすると、ソフトウェアの更新が完了します。



***注:** コンピューターがインターネットに接続されていることを確認してください。

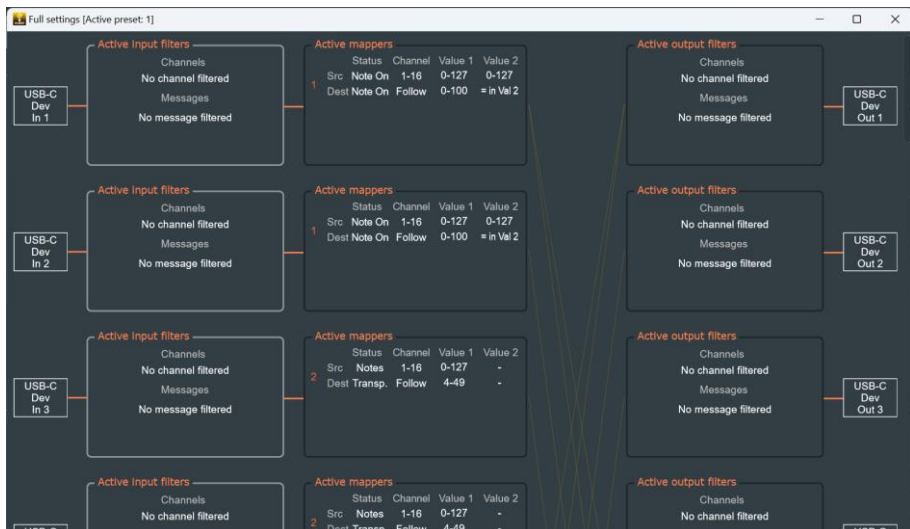
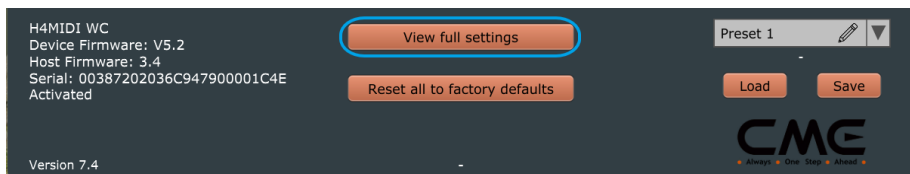
- **[プリセット]:** フィルター、マッパー、ルーターなどのカスタム設定は、CME USB HOST MIDI デバイスに[プリセット]として保存され、スタンドアロンで使用できます(電源を切った後でも)。カスタムプリセット付きの CME デバイスをコンピューターの

USB ポートに接続し、HxMIDI ツールで選択すると、ソフトウェアは自動的にデバイスのすべての設定とステータスを読み取り、ソフトウェアインターフェースに表示します。

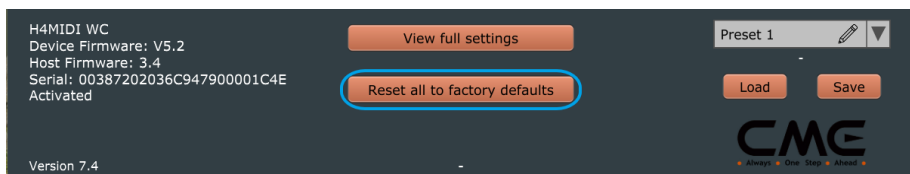


- 設定する前に、ソフトウェアインターフェースの右下隅にあるプリセット番号を選択してから、パラメータを設定してください。すべての設定変更は、このプリセットに自動的に保存されます。プリセットは、多機能ボタンまたは割り当て可能な MIDI メッセージで切り替えることができます(詳細については、[プリセット設定]を参照してください)。プリセットを切り替えると、それに応じてインターフェースの LED が点滅します(LED は プリセット 1 で 1 回点滅し、プリセット 2 では 2 回点滅します)。
 - プリセット名の右側にある[鉛筆アイコン]をクリックして、プリセット名をカスタマイズします。プリセットの名前の長さは、英語と数字で 16 文字に制限されています。
 - **[保存]** ボタンをクリックして、プリセットをコンピューターとして保存します file.
 - **[ロード]** ボタンをクリックすると、コンピューターから現在のプリセットにプリセットファイルがロードされます。
- **[すべての設定を表示]:** このボタンは、全体的な設定ウィンドウを開き、現在のデバイスの各ポートのフィルター、マッパー、

およびルーターの設定を 1 つの便利な概要で表示します。



- [すべてを工場出荷時のデフォルトにリセット]: このボタンは、ソフトウェアによって接続および選択されたデバイス(フィルター、マッパー、ルーターを含む)のすべての設定を元の工場出荷時のデフォルトに戻します。

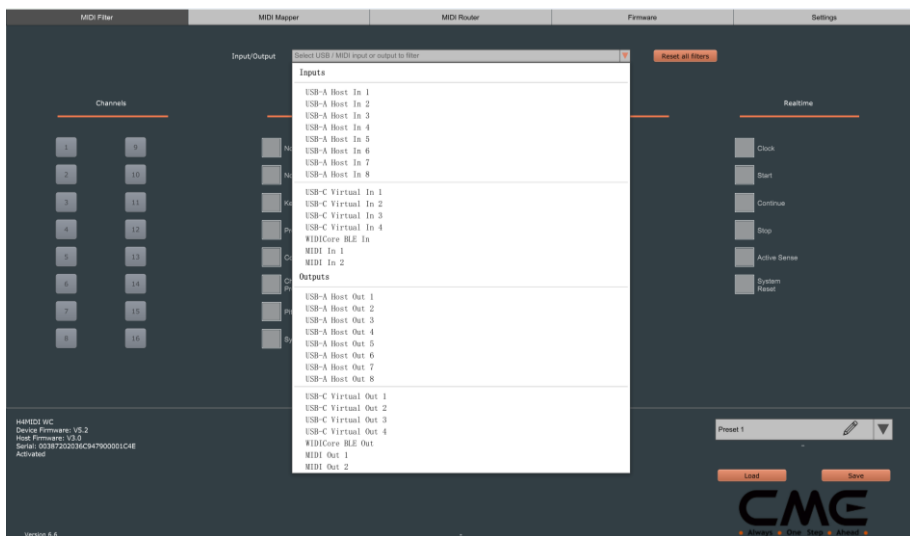


MIDI フィルター

MIDI フィルターは、選択した入力ポートまたは出力ポートの特定のタイプの MIDI メッセージが通過しなくなったのをブロックするために使用されます。

● フィルターを使用する:

- まず、画面上部の[入力/出力]ドロップダウンウィンドウで設定する必要のある入力ポートまたは出力ポートを選択します。入力ポートと出力ポートを下図に示します。

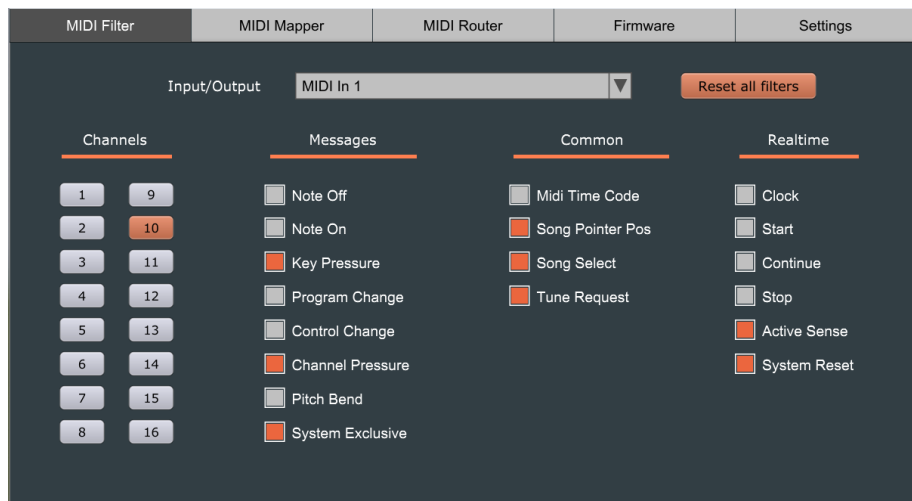


***注:** 次の図は、HxMIDI ツールソフトウェアのさまざまな入力ポートと出力ポートの接続を示しています。[Inputs]ポートは、コンピューターおよび接続された MIDI デバイスからデータを受信するために

使用され、「Outputs」ポートは、コンピューターおよび接続された MIDI デバイスにデータを送信するために使用されます。



- 下のボタンまたはチェックボックスをクリックして、ブロックする必要がある MIDI チャンネルまたは メッセージタイプを選択します。MIDI チャンネルを選択すると、この MIDI チャンネルのすべてのメッセージがフィルタリングされます。特定のメッセージタイプを選択すると、そのメッセージタイプはすべての MIDI チャンネルでフィルタリングされます。



- **[すべてのフィルターをリセット]:** このボタンは、すべてのポートのフィルター設定をデフォルトの状態にリセットし、どのチャンネルでもフィルターがアクティブになっていません。

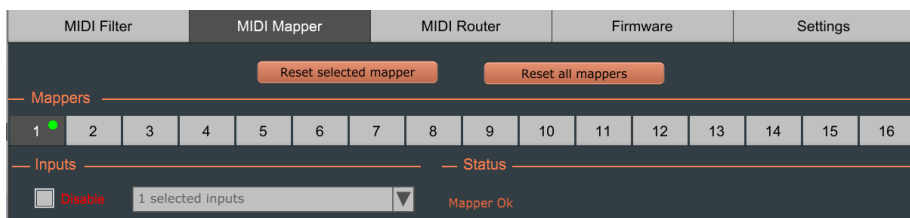
MIDI マッパー

「MIDI Mapper」ページでは、接続および選択したデバイスの入力データを再マッピングして、ユーザーが定義したカスタムルールに従って出力できるようにすることができます。たとえば、演奏したノートをコントローラーメッセージや別の MIDI メッセージに再マッピングできます。これに加えて、データ範囲と MIDI チャンネルを設定したり、データを逆に出力したりすることもできます。

- **[選択マッパーをリセット]:** このボタンは、現在選択されているシングルマッパーと、接続して選択されている CME USB HOST

MIDI デバイスに保存されているマッパー設定をデフォルトの状態にリセットし、新しいセットアップを開始できるようにします。

- **[すべてのマッパーをリセット]:** このボタンは、MIDI マッパーページのすべてのセットアップパラメーターと、接続して選択した CME USB HOST MIDI デバイスに保存されているマッパー設定をデフォルトの状態にリセットします。



- **[マッパー]:**これらの 16 個のボタンは、自由に設定できる 16 の独立したマッピングに対応しており、複雑なマッピングシナリオを定義できます。
 - マッピングが構成されている場合、ボタンは逆の色で表示されます。
 - 設定済みで有効なマッピングの場合、ボタンの右上隅に緑色の点が表示されます。
- **[入力]:**マッピングする入力ポートを選択します。
 - **[無効]:**現在のマッピングを無効にします。
 - **[USB-A Host In]:**USB-A ポートからのデータ入力を設定します。
 - **[USB-C Virtual In]:**USB-C ポートからのデータ入力を設定します。

- **[WIDICore BLE In]**(H4MIDI WC のみ): オプションの WIDICore Bluetooth MIDI ポートからのデータ入力を設定します。
- **[MIDI 入力]**: DIN MIDI ポートから入力するデータを設定します。
- **[Config]**: このエリアは、ソース MIDI データとユーザー定義の出力データ(マッピング後)を設定するために使用されます。上の行は入力用のソースデータを設定し、下の行はマッピング後の出力用の新しいデータを設定します。

The screenshot shows the 'Config' menu with four columns:

- Message**:
 - Top: Note On (dropdown)
 - Bottom: Note On (dropdown)
 - Keep original (checkbox)
 - Skip notes: None (dropdown)
- Channel**:
 - Top: Min 1, Max 16 (dropdowns)
 - Bottom: 1 (dropdown)
 - Follow (checkbox)
 - Transpose channel (checkbox)
- Note -> Note**:
 - Top: Min 0, Max 127 (dropdowns)
 - Bottom: Min 0, Max 110 (dropdowns)
 - Follow (checkbox)
 - Invert (checkbox)
 - Use input value 2 (checkbox)
 - Compress/Expand (checkbox)
- Velocity -> Velocity**:
 - Top: Min 0, Max 127 (dropdowns)
 - Bottom: Min 0, Max 127 (dropdowns)
 - Follow (checkbox)
 - Invert (checkbox)
 - Use input value 1 (checkbox)
 - Compress/Expand (checkbox)

- マウスカーソルを各キー領域に移動すると、機能の説明が表示されます。
- 設定されたパラメータが正しくない場合は、エラーの原因を示すテキストプロンプトが機能領域の上に表示されます。
- ◆ **[メッセージ]**: 上部でマッピングするソース MIDI メッセージタイプを選択し、下部でマッピングするターゲット MIDI メッセージタイプを選択します。別の[メッセージ]タイプを選択すると、右側の他のデータエリアのタイトルもそれに応じて変更されます。

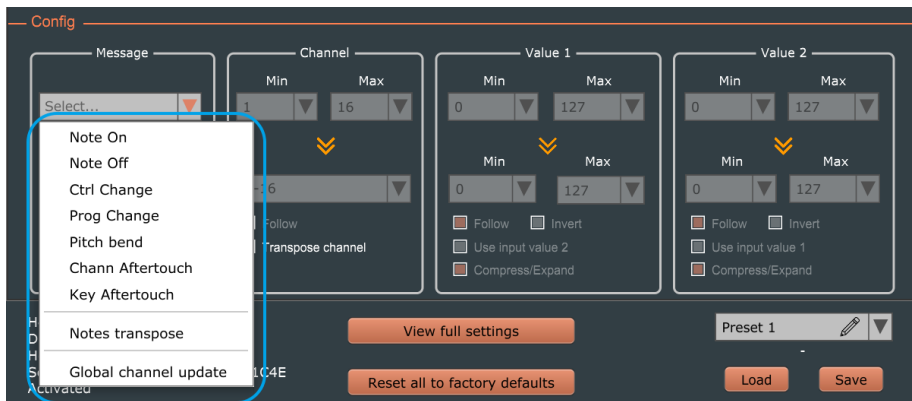


表 1: ソース データ タイプ

メッセージ	チャンネル	値 1	値 2
に関する注意事項	チャンネル	手記#	速度
ノートオフ	チャンネル	手記#	速度
Ctrl 変更	チャンネル	コントロール#	量
プログレッシブ・チェンジ	チャンネル	パッチ#	使用されません
ピッチベンド	チャンネル	ベンド LSB	ベンド MSB
チャン・アフタータッチ	チャンネル	圧力	使用されません
キーアフタータッチ	チャンネル	手記#	圧力
ノートの移調	チャンネル	Note->転置	速度
グローバルチャンネル更新	チャンネル	該当なし	該当なし

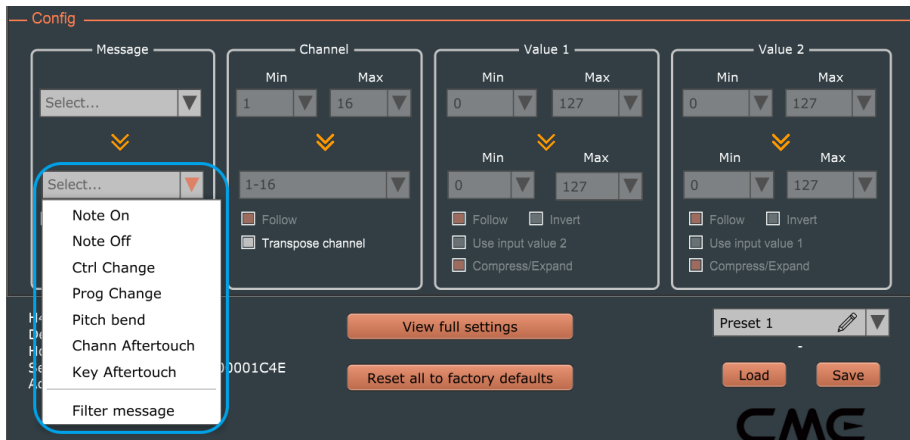


表 2: マッピング後の新しいデータ型

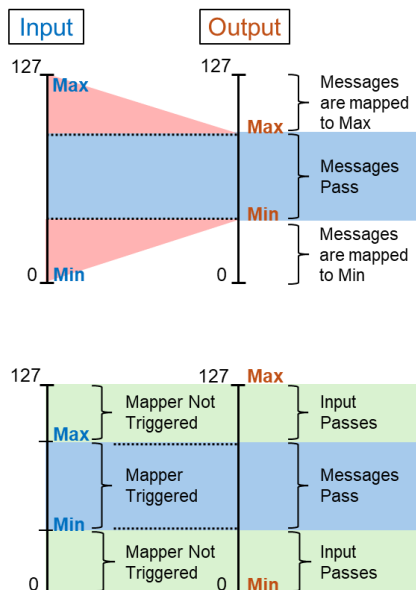
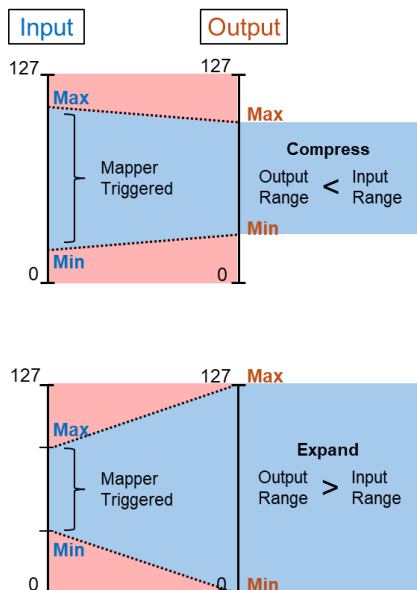
に関する注意事項	ノートオープン メッセージ
ノートオフ	ノートオフ メッセージ
Ctrl 変更	制御変更 メッセージ
プログレッシブ・チェンジ	音色変更 メッセージ
ピッチベンド	ピッチベンディングホイール メッセージ
チャン・アフタータッチ	チャンネル のアフタータッチ メッセージ
キーアフタータッチ	タッチ後のキーボード メッセージ
メッセージのフィルタリング	フィルタリングするメッセージ

- **[オリジナルを保持]:**このオプションを選択すると、マッピングされた MIDI メッセージと同時にオリジナル MIDI メッセージが送信されます。元の MIDI 情報は保持され、再度マッピングに使用することはできませんのでご注意ください。

- **[ノートをスキップ]:** ランダムにノートをスキップします。ドロップダウンオプションをクリックして、指定したノート範囲内でランダムにフィルタリングされるノートの割合を設定します。
- **[チャンネル]:** ソース MIDI チャンネルと宛先 MIDI チャンネル、範囲 1~16 を選択します。
- **[最小]/[最大]:** 最小チャンネル値/最大チャンネル値の範囲を設定し、同じ値に設定できます。
- **[フォロー]:** このオプションを選択すると、出力値はソース値と同じ(フォロー)になり、再マッピングされません。
- **[チャンネルの移調]:** このオプションを選択すると、選択したチャンネルの値を増減できます。
- **[値 1]:** 選択した[メッセージ]タイプ(表 2 を参照)に基づいて、このデータは 0~127 の範囲の Note # / Control# / Patch # / Bend LSB / Pressure / Transpose にすることができます(表 1 を参照)。
- **[最小]/[最大]:** 最小値/最大値を設定して範囲を作成するか、特定の値に対する正確な応答のために同じ値に設定します。
- **[フォロー]:** このオプションを選択すると、出力値はソース値と同じ(フォロー)になり、再マッピングされません。
- **[反転]:** 選択すると、データ範囲が逆の順序で実行され

ます。

- **[入力値 2 を使用]:**選択すると、入力値 2 から出力値 1 が取得されます。
 - **[圧縮/拡張]:**値を圧縮または拡張します。選択すると、ソース値の範囲は、ターゲット値の範囲に比例して圧縮または拡張されます。
 - **[値 2]:**選択した[メッセージ]タイプ(表 2 を参照)に基づいて、このデータは 0～127 の範囲の速度/量/未使用/曲げ MSB /圧力にすることができます(表 1 を参照)。
 - **[最小]/[最大]:**最小値/最大値を設定して範囲を作成するか、特定の値に対する正確な応答のために同じ値に設定します。
 - **[フォロー]:** このオプションを選択すると、出力値はソース値(フォロー)とまったく同じになり、再マッピングされません。
 - **[反転]:**選択すると、データは逆の順序で出力されます。
 - **[入力値 1 を使用]:**選択すると、入力値 1 から出力値 2 が取得されます。
 - **[圧縮/拡張]:**値を圧縮または拡張します。選択すると、ソース値の範囲は、ターゲット値の範囲に比例して圧縮または拡張されます。
- ※[圧縮/拡張]オプションに関する注意事項: マッパーの対象値範囲が元データ範囲と異なる場合に、設定値を対象値範囲に圧縮または拡張できるオプション。

Compress / Expand **Disabled**Compress / Expand **Enabled**

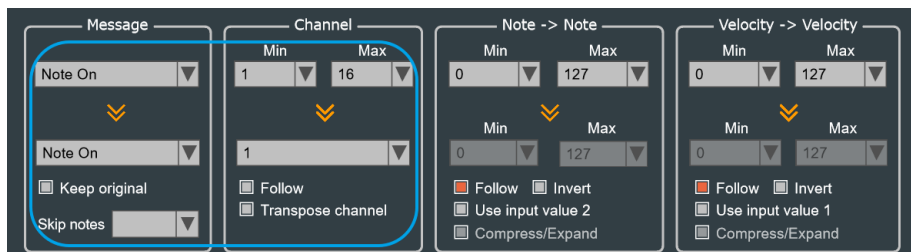
マッパーが設定した出力範囲が入力範囲より小さい場合、例えば 0-40 を 10-30 にマッピングする場合、[Compress/Expand] オプションを無効にすると、それに応じて 10-30 のみがマッパーを介して出力され、0-9 は 10 にマッピングされ、31-40 は 30 にマッピングされます。[圧縮/拡張] オプションを有効にすると、圧縮アルゴリズムは設定された範囲全体に対して機能し、0 と 1 は 10 にマップされ、2 と 3 は 11 にマップされます...39 と 40 が 30 にマップされるまで、この作業が繰り返されます。

マッパー設定の出力範囲が入力範囲より大きい場合、例えば 10-30 を 0-40 にマッピングする場合、[圧縮/拡張] オプションを無効にすると、0-10 と 30-40 はマッパーを経由せずに直接通過し、10-30 はそれに応じてマッパーを経由して出力されます。[圧縮/拡張] オプショ

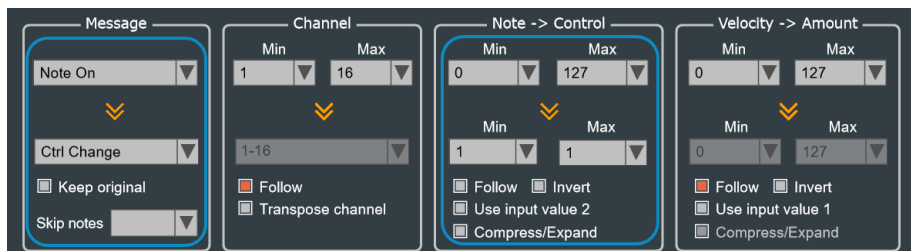
ンを有効にすると、拡張アルゴリズムは設定された範囲全体に対して機能し、10 は 0 にマップされ、11 は 2 にマップされます...30 が 40 にマップされるまで、というように続きます。

● マッピングの例:

- 任意のチャンネル入力のすべての[Note On]をチャンネル 1 からの出力にマッピングします。



- すべての[Note On]を[Ctrl Change]の CC#1 にマッピングします。

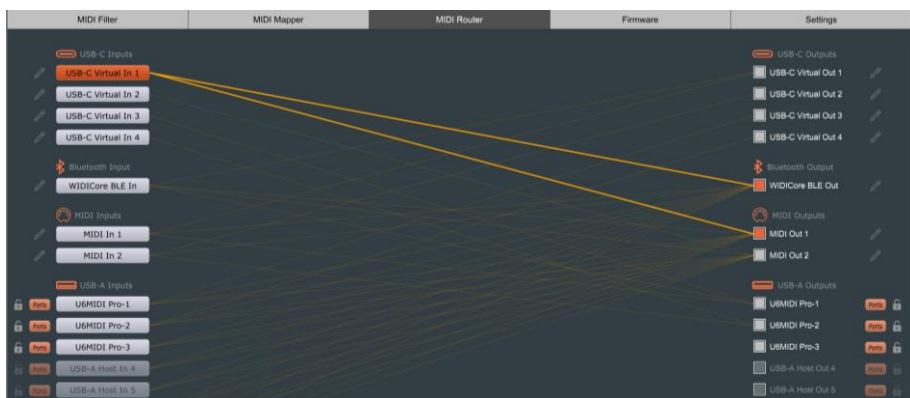


MIDI ルーター

MIDI ルーターは、CME USB HOST MIDI デバイスの MIDI メッセージの信号フローを表示および構成するために使用されます。

- 配線の方向を変更します。

- まず、左側の入力ポートボタンをクリックすると、ソフトウェアは接続を使用してポートの信号方向(存在する場合)を表示します。
- 右側のチェックボックスをクリックして、ポートの信号方向を変更するために必要な1つ以上のチェックボックスを選択/キャンセルします。同時に、ソフトウェアは接続を使用してプロンプトを表示します。現在選択されているポート接続が強調表示され、残りの接続は淡色表示されます。



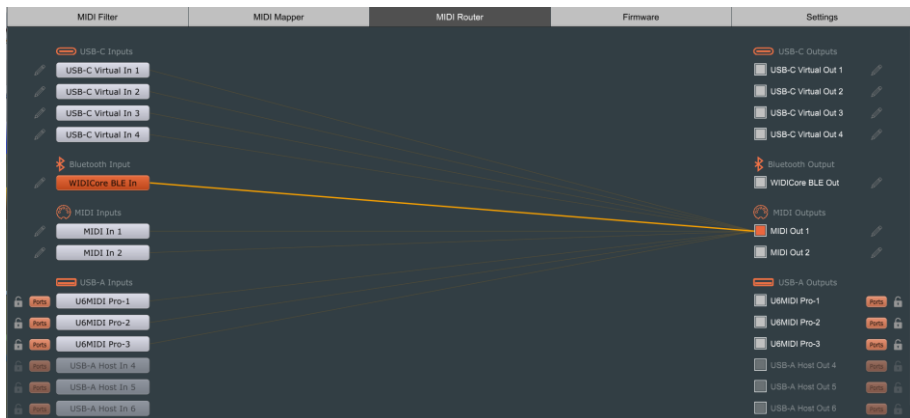
- ポートの横にあるペンアイコンをクリックして、このソフトウェアに表示されるポートの名前をカスタマイズします (ただし、この名前は DAW ソフトウェアに表示されるポート名には影響しません)。

● H4MIDI WC の例:

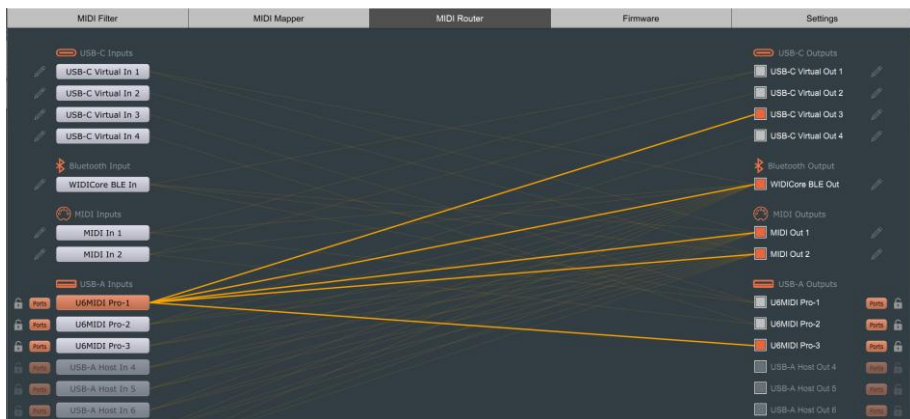
MIDI スプリット/スルー



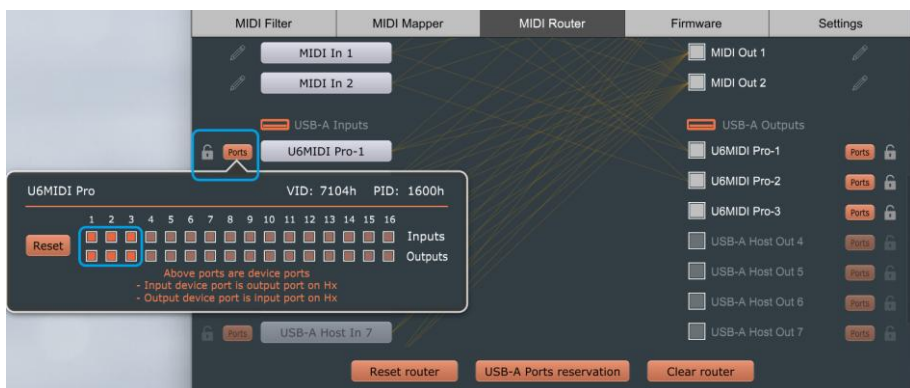
MIDI マージ



MIDI ルーター - 詳細設定



- **[ポート]:**このボタンをクリックして、同じデバイスの複数のUSB 仮想ポートを有効または無効にし、不要なデバイスポートがUSB-A ホストポートを占有するのを防ぎます。



- 必要に応じて、入力ポートまたは出力ポートの選択ボックスをクリックします。ここでいう「入力」とは、実際には接続したデバイスの USB MIDI 仮想入力ポートを指し、こ

れは HxMIDI Tools ソフトウェアに表示される USB-A 出力ポートであり、「出力」は HxMIDI Tools の USB-A 入力ポートであることに注意してください。

- ポートを選択して有効にすると、その選択ボックスがオレンジ色で表示されます。ポートの選択を解除して無効にすると、その選択ボックスが白で表示されます。[リセット]ボタンをクリックすると、ポートの選択状態がリセットされます。
 - ポートを選択した後、ソフトウェアインターフェイスの他の領域でマウスをクリックしてポート選択ウィンドウを閉じると、無効にされたポートが USB-A ポートリストから消えます。
- **[ルーターのリセット]:**このボタンをクリックすると、現在プリセットされているすべてのルーター設定がデフォルトの状態にリセットされます。
 - **[USB-A ポートの予約]:**このボタンをクリックすると、USB ホストの仮想ポート位置にある特定の USBMIDI デバイスのポートが予約され、次の起動時に、接続された複数の USBMIDI デバイスが元の順序を維持できるようになります。
- 最初に入力ラベルと出力ラベルの下デバイスを選択し、次にポートを選択します。デバイスとポートを選択すると、USB-A ポートの横にロックアイコンが表示され、ポートが予約されていることを示します。
 - [リセット]ボタンをクリックすると、現在選択されているすべての選択がデフォルトの状態にリセットされます。ポート予約設定が変更されていない場合は、再度[USB-A ポート予約]ボタンをクリックして設定インターフェースを終了

し、ルーティング設定に戻ってください。

- [ポート予約の適用]ボタンをクリックすると、予約されたポート設定が ハードウェアインターフェースのフラッシュメモリに自動的に保存されます。同時に、接続されたハードウェアインターフェースが自動的に再起動し、ソフトウェアインターフェースが更新され、最新の予約済みポート設定が表示されます。

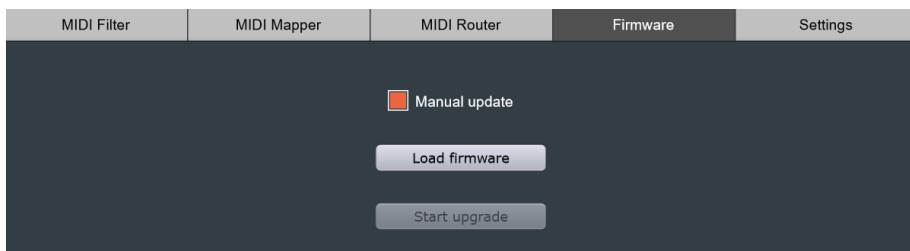


- **[ルーターのクリア]:**このボタンをクリックすると、現在プリセットされているすべてのルーター接続設定をクリアします。つまり、ルーティング設定はありません。

ファームウェア

ソフトウェアを自動的に更新できない場合は、このページで手動

で更新できます。 www.cme-pro.com/support/ Web ページにアクセスし、CME テクニカル サポートに連絡して最新のファームウェアファイル入手してください。ソフトウェアで[手動更新]を選択し、[ファームウェアの読み込み]ボタンをクリックしてダウンロードしたファームウェアを選択します file コンピューター上で、[アップグレードの開始]をクリックして更新を開始します。



設定

[設定]ページは、ソフトウェアでセットアップおよび操作する CME USB HOST MIDI デバイスモデルとポートを選択するために使用されます。複数の CME USB HOST MIDI デバイスが同時に接続されている場合は、ここでセットアップする製品とポートを選択してください。

- **[プリセット設定]:** [MIDI メッセージからのプリセット変更を有効にする]オプションを選択すると、ユーザーはノートオン、ノートオフ、コントローラー、またはプログラムチェンジ MIDI メッセージを割り当てて、プリセットをリモートで切り替えることができます。[メッセージを MIDI/USB 出力に転送する]オプションを選択すると、割り当てられた MIDI メッセージも MIDI 出力ポートに送信できるようになります。

MIDI Filter	MIDI Mapper	MIDI Router	Firmware	Settings
MIDI Settings Product #1 CME H4MIDI-WC ▼ MIDI Input H4MIDI-WC ▼ MIDI Output H4MIDI-WC ▼				
Presets Button Device Preset Settings ☐ Enable changing preset from MIDI messages Message Select... ▼ Channel ▼ Prog number ▼ ☐ Forward message to MIDI/USB outputs				

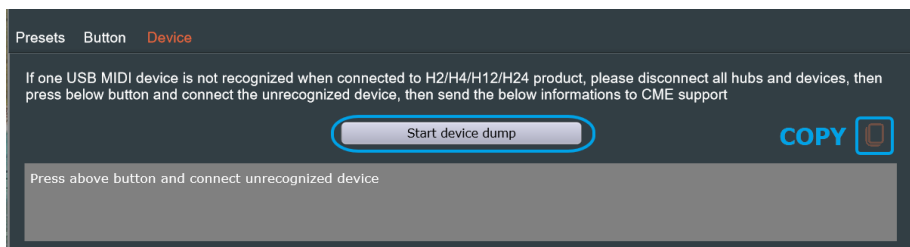
- **[ボタン]:** ユーザーは、現在のプリセットを変更するようにボタンを設定するか、オールノートオフメッセージを送信するかを選択できます。

Presets	Button
Button Settings (Short push) ☒ Change current preset ☐ Send Panic (All Notes Off)	

- **[デバイス]:** この機能は、互換性の問題がある USB デバイスの USB 説明を抽出し、CME サポートチームに送信してサポートを求めるために使用されます。
 - まず、CME USB HOST MIDI インターフェースの USB-A ポートに接続されているすべての USB ハブとデバイスを取り外してから、[デバイスダンプの開始]ボタンをクリックし

てください。

- 次に、以前に認識されていなかった USB デバイスをインターフェースの USB-A ポートに接続すると、デバイスの USB 記述子がウィンドウの灰色の領域に自動的に抽出されます。
- [デバイスダンプ開始]ボタンの右にあるコピーアイコンをクリックすると、すべての USB ディスクリプタが自動的にクリップボードにコピーされます。
- メールを作成し、USB 記述子をメールに貼り付けて、support@cme-pro.com に送信します。CME は、ファームウェアのアップグレードを通じて互換性の問題を解決しようとしています。



**注:ソフトウェアのバージョンは継続的に更新されるため、上記のグラフィカルインターフェイスは参照用であり、ソフトウェアの実際の表示を参照してください。*

よくある質問

- CME USB MIDI デバイスがコンピュータに認識されません。
 - Windows 10/11 の場合:

コンピュータがしばらくアイドル状態（スリープモードやその他の省電力モード）だった場合、ソフトウェアが初回起動時に CME USB MIDI インターフェースを検出しないことがあります。ただし、ソフトウェアを再起動すると通常は問題が解決します。

- **Windows でのマルチクライアント:**

CME ソフトウェア以外の音楽アプリケーションが既に USB MIDI ポートを使用しています。Windows はマルチクライアント MIDI をサポートしていないため、CME ソフトウェアへのアクセスがブロックされる可能性があります。

- **MacOS でのデバイス名の変更:**

CME USB MIDI デバイスの名前を変更した場合、CME ソフトウェアは接続を確立するために元のデバイス名を必要とするため、デバイスを認識しない可能性があります。

- **MacOS での MIDI Studio 経由のルーティング:**

macOS MIDI Studio で CME USB MIDI インターフェースを手動でルーティングした場合（例：IAC 経由、またはその他の設定経由）、インターフェースの最初の USB ポートが占有される可能性があります。CME ソフトウェアは最初のポートが利用可能であることを前提としているため、競合が発生する可能性があります。

- **USB ケーブルを確認してください。**

通信が中断されないように、高品質の USB（データ）ケーブルと信頼性の高い USB ハブを使用してください。

接触

E メール: support@cme-pro.com

ウェブサイト: www.cme-pro.com